

H25. 2. 2

食道がん治療



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内
科入局。平成7年、尼崎市で「長
尾クリニック」を開業。外来診療
から在宅医療まで「人を診る、総
合診療を目指す。医学博士。近著
「平穏死・10の条件」「胃ろうと
いう選択、しない選択」はいずれ
もベストセラー。関西国際大学客
員教授。54歳。

人気歌舞伎俳優の中村勘三郎さんが、食道がんのため57歳の若さで旅立たれたニューアスはショックでした。あんなに元気だったのになぜ帰らぬ人になったのか。誰もが知りたいところでしょう。2回にわたり勘三郎さんの全治療経過を振り返りながら考えてみます。

昨年5月30日、57歳の誕生日を家族や仲間祝ってもらった2日後、開業医での内視鏡検査で食道がんが発見されました。6月5日、がん研有明病院でPET検査を行い、リンパ節転移が判明し7日、同病院に入院。6月11、15日、1回目の抗がん剤治療を受け、18日の記者会見で食道

勘三郎さんはなぜ死んだ？



「抗がん剤」シリーズ⑩

がんを公表しました。

7月3〜7日、2回目の抗がん剤治療を受けました。各回120時間、延べ240時間の時間を費やしています。7月18日、いったん退院し舞台上に立ち、24日には自ら主催するゴルフコンペで準優勝するほど元気でした。その翌日、再入院し、27日、12時間にも及ぶ外科手術を受け、翌日には廊下を15分歩行しました。

8月1日、鼻から胃に入ったいた管が抜去されました。翌日、嘔吐し吐物を誤嚥した。食道がんのⅡ期とⅢ期の標準的治療で、いきなり手術をするより治療成績が良いとされています。

5-FUとシスプラチンの2剤による治療でしょうか。5-FUは24時間の点滴を4日間続けます。シスプラチンは1日目に2時間かけて点滴します。勘三郎さんの抗がん剤入院は2回とも5日間でした。この治療は4週間ごとに2クールすることが決まりです。勘三郎さんは、2回目を



食道がん 60代の男性に好発し、消化器のがんの中では難治性。早期がんは、ほぼ無症状。日本では9割が扁平上皮がんであるが、欧米では腺がんの割合が多い。喫煙とアルコールとの関連が深い。

せました。呼吸不全は改善しませんが、抗がん剤治療そのものの効果があつたようです。シスプラチンは、いわば抗がん剤の代表格。吐気、倦怠感、脱毛などの副作用はあまりにも有名です。白血球や血小板が減少しますが、1〜2週間目が「底」です。2回目の抗がん剤終了後3週間目に手術が行われていますが、この時期には、抗がん剤の副作用はもうなかったはず。手術の3日前のゴルフコン

ペで準優勝し、イタリヤ料理店で打ち上げまでされています。もし抗がん剤の副作用が残っていたら、準優勝も打ち上げも無理だったでしょう。以上、勘三郎さんが受けた抗がん剤治療の経過は非常に良好で、とくに問題がなかったように思えます。そのあと、いったい何が起きたのでしょうか。抗がん剤治療以外に原因があったのではないかと想像します。

したようです。3日、肺炎の治療として人工呼吸器を装着し、ARDS(急性呼吸窮迫症候群)と診断され、気管切開が施されました。9日に東京女子医大の医師が泊まり込み、10日には東京女子医大に転院。その後、一進一退が続きました。9月5日、ECMO(体外式膜型人工肺)による治療のため、今度は日本医大に転院。一時は驚異的な回復をみ

ひよっぴ